

ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.4

創立94年、農業と人の育成に取り組み、全国でのべ8,000人余の卒業生を輩出している日本農業実践学園は、現在、農業をベースに教育、福祉、SDGsと農業の関わりなど世界の環境や時代のニーズを取り入れながら、学生の教育を行っている、日本農業実践学園学園長 靱山旭太さんにインタビューします。



—学生一人一人の夢が叶うこと
それが僕の夢です—

日本農業実践学園 学園長 靱山旭太さん

-日本農業実践学園とはどんな学校ですか？

創立94年（昭和2年創立）の本校は、農家後継者のための学校で、当時は親類以外の大人から農業を学ぶ機会が乏しく、農村の青年にとっては画期的な学校でした。

現在は、農業を学ぶため、農業法人へ勤める方のため、農業を経営する方のために18歳から60歳過ぎの様々な目的をもった学生が在学しています。授業のほとんどは、農業実習がメイン・座学は少しです。生産現場で即戦力として実力を発揮できるように、そして農業現場で中心となって働けるように人材を育成できるよう教えています。

また、本校は生徒と教師が共同生活を送りながら、農業を学んでいます。授業以外では、オンラインショップや購買所の運営、子どもたちの農業体験なども行っています。

ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.4



楽しそうに作業する生徒のみなさん

- 初山様の夢 -

目標について教えてください

学生と日々向き合っていると、個々の目標や課題が見えてきます。それをサポートすることが僕の仕事だと思っています。その課題を解決する。学生一人一人の夢をかなえることが僕の夢です。

-これから学園で取り組みたいと思っていることはありますか？

テーマとして面白いなと思っているのが、農業や馬など動物の飼育を通して発達障害の療育をすることです。農業は栄養以外で人の精神衛生面における健康にも影響があるという見解も出ており、有名な例では、園芸療法による効果があるといわれています。

農業が食べ物を作るだけでなく、人の感情やモラル、思考のバランスを整え創造する産業でもあることをアピールしたいです。

現在は農福連携を目指し、地域の社会福祉事業者と連携して放課後等デイサービスをはじめました。農育を通して社会へ理解を広め、障がいを持っている方の立ち位置や世界を変えていきたいし、そこを明確にしていきたいと思っています。



学園の直売店では、学園のみなさんが作った新鮮な野菜や加工食品を販売しています。

ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.4

-ワタミの電気に変えようと思ったきっかけは

電気代が安くなるというのが大きな理由です。学校の事業費がかかるため削減は必須です。しかし、過去に新しい電力会社と取引した際トラブルがあったため、営業の顔の見える方と電気契約したいなと思うようになりました。そのような経緯があったタイミングでワタミエナジーと出会ったので、顔の見える営業マンがいることと、電気以外でワタミファームとの科学反応があると考えました。事業同士の親和性もあったため、ワタミエナジーに決めました。

-ワタミエナジーに対して要望やご意見ございましたら、お願いします

電力業界について知識がない人が多いと思うので、電気料金価格は適正な価格を提供して頂きたいのと、環境の配慮もやっていただきたいと思っています。また、電力会社について偏見かと思いますが、カスタマーサービスの対応が業務的で冷たいイメージがあります。そこでワタミエナジーには、例えば居酒屋のように温かい電力会社さんのようなイメージに変えて欲しいと思います。小さなことかもしれませんが、電話がつながりにくいとか問い合わせしにくいなどが無いように配慮したり、電力会社の新しい風を作ってほしいと思います。本校の場合は、今後は電気料金削減より、そもそも電気をなるべく使わない省エネで具体的に行える節電法を教えてしてほしいと思います。

